



Amihari
visitor center

Vol.106
2023.1



コガラトリオの目視確認

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

三者三様“コガラのトリオ”

季節外れの雨が降り、その後の冷え込みでフカフカだった雪は一気にしまり、輪かんじきでも歩きやすくなった森の中でカラ類の混群に出会いました。異なった種類の鳥たちが群れを作って行動している混群は冬季ならではの光景です。よく通る声と肩の黄緑色から翼の青灰色のグラデーションが小粋なシジュウカラ、お腹の橙色が目を引きヤマガラ、逆さまになって一心不乱に樹皮をほじくり返しているゴジュウカラ。その中には、音もなく飛び回るコガラの姿も。コガラは申し訳程度に残っているコシアブラの黒い実をせわしなくつついていました。よく見るとコガラは3羽いて、先に実をつついていた相手に突進して場所を横取りしたりするなど忙しく飛び回り、その混群の中で一番賑やかでした。小さな体で厳しい寒さや雪の中、食べるものを日々探しながら生きていることに感服しつつも、盛んに小競り合っている様子は何ともコミカルでそのギャップに笑いがこみ上げてきました。コガラ以外は順次別の場所へ移動し始め、コガラのトリオも我に返ったように慌てておのおの飛んで行ってしまいました。コガラはカラ類の中でも色味が少なく、目立つ存在ではなかったのですが、この賑やかなトリオのおかげでこれから「混群と言えば…」の筆頭にコガラを挙げたくなりました。

What is “Kogara”?

「黒いベレー帽のカラ類」

シジュウカラ科
全長：約 13cm
分布：北海道～九州

低山から亜高山の林に生息し、落葉広葉樹林に多い。虫やクモ、草の種や木の実などを食べる。雌雄同色。頭のベレー帽と顎ヒゲのような喉の黒色が特徴。北海道には見た目がそっくりなハシブトガラが生息している。網張ではカラ類の混群の中にキツツキのコガラが一緒にいることも。

(参考図書：「庭や街で愛でる野鳥の本」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



SPACE ODDITY

Written by David Bowie

デヴィッド・ボウイは2016年1月10日に亡くなりました。ボウイは「遺体はバリ島に搬送し、仏教の儀式にのっとって火葬してほしい」と遺言を残していたそうです。ボウイの世代で仏教にかぶれるロックミュージシャンは少なくなかったそうですが、晩年までその思いを保ち続けたのは異例です。

Space Oddity は、アポロが月面着陸した 1969 年にリリースされました。ある種の無常観が漂い、キリスト教的世界観及び体制への反発をエネルギーに変える「ロック」とは源泉が異なる印象を受けます。ニーチェの「永劫回帰」という思想や、仏教の「諸行無常」という教えもボウイに影響を与えていた可能性があります。



ミスナラに残されたクマ棚、幾世も現れては消えてを繰り返してきた事だろう

【諸行無常】 仏教の根本思想。この世の一切のものは時間の経過とともに生滅し、永久不変のものはないという事。

バリ島では死後に火葬されるとひ孫の世代に生まれ変わると信じられ、葬式はこの世へ出る喜びを表現するものであり、悲しまなくてもよいという共通認識があるそうです。それは、土着のアニミズムとヒンドゥー教、仏教が融合した「バリ・ヒンドゥー教」独特の死生観です。ボウイは既成概念にとらわれず、自分のセンスに合うものを取り入れて、過去の自分を躊躇なく捨て去る事ができる稀有な表現者でした。先の遺言の内容は実現しなかったようですが、生涯をかけて“デヴィッド・ボウイ”を演じぬいた生きざまは、この先も世代を超えて受け継がれて行く事でしょう。

参考図書：梅原 猛『人類哲学序説』 羽矢 辰夫『ゴータマ・ブッダその先へ』



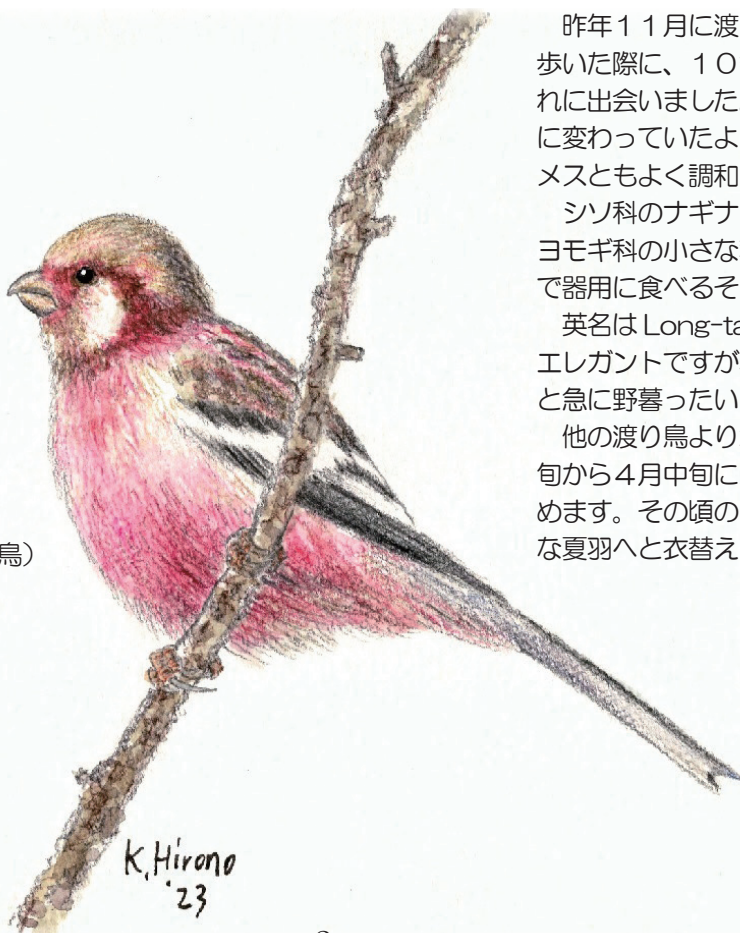
アミハリ・バース
Vol. 4 8

ベニマシコ

科名：アトリ科
全長：約15cm
生態：冬鳥
(北海道や青森では夏鳥)
分布：全国

鳴き声

ピッ、フィッ、
ピッ、ピッポ



昨年11月に渡り鳥を探して奥産道を歩いた際に、10数羽のベニマシコの群れに出会いました。オスは、すでに冬羽に変わっていたようで、地味な色合いのメスともよく調和していました。

シソ科のナギナタコウジュやイネ科、ヨモギ科の小さな種子を、短いくちばしで器用に食べるそうです。

英名は Long-tailed Rose Finch、とエレガントですが、漢字だと「紅猿子」と急に野暮ったい印象になりますね。

他の渡り鳥より北帰行は早く、3月中旬から4月中旬にかけて北国へ移動を始めます。その頃のオスは、もっと鮮やかな夏羽へと衣替えを始めているのかな？

ビジターセンターの行事に参加したおかげで、日々の暮らしの中でも自然に目が行くようになりました。時々、こうした嬉しいお声をかけて下さる方がいて、その方の世界が広がったかと思うと嬉しくなります。様々な“いきもの”の存在を感じられるようになると、たくさんの命に生かされている事にも気づかされます。四季が移ろうごとに現れてはどこかへ旅立っていくもの、同じ場所で根を張り続けるもの、土中で地上に出るのを待つもの、“いきもの”のリレーは続きます。今回は、これまでに取り上げてきた様々な“いきもの”について振り返ってみたいと思います。

“いきもの”にまつわる記事や連載

2005年 (H17)

ニューズレターVol.1 発行

連載

「岩手山の自然●豆知識●」

2006年 (H18)

連載「ご存知ですか？」

2007年 (H19)

- ・コマクサ
- ・オニグモ
- ・コウモリ
- ・フユシヤクほか



2008年 (H20)

表紙連載

「網張温泉トピック」

2009年 (H21)

- ・ヒメボタル
- ・コテングコウモリ
- ・ホシガラス
- ・クロカワゲラ
- ・土壌動物ほか



2010年 (H22)

2011年 (H23)

表紙連載

「網張の森の生き物たち」

2012年 (H24)

連載「展示コーナー紹介」

- ・モリアオガエルのオタマジャクシ
- ・リスの巣ほか

2013年 (H25)

連載

「網張の森セルフガイド」

2014年 (H26)

- ・サウグルミ
- ・トチノキ
- ・ホオノキ
- ・常緑低木ほか

2015年 (H27)

連載

「アミハリ・バズ」

- ・ヤマガラほか



2016年 (H28)

連載

「喜作先生の自然スケッチ」

2017年 (H29)

- ・キハダ
- ・ヤマブドウ
- ・ヤドリギ
- ・ツルアジサイと

2018年 (H30)

連載

「倒木を読む」

- ・菌糸
- ・キノコ
- ・腐朽材食性昆虫
- ・タネ
- ・コケほか



2019年 (H31/R1)

2020年 (R2)

2021年 (R3)

2022年 (R4)

2023年 (R5)

岩手山の火山による成り立ちから、植物群落の分布特性（ブナクラスの森林植生とコケモモ・トウヒクラスの森林植生、積雪と植生について、オオシラビソと積雪について、火山荒原、ハイマツ群落、落葉広葉低木群落、ダケカンバ林、チシマザサ群落、オオシラビソ林、コメツガ林、キタゴヨウ林、ブナ林、ミズナラ林、カラマツの人工林）が解説され、複雑な火山地形の元で多様な植生が分布していることをご紹介しました。

その後、解説は野鳥や哺乳動物、昆虫と続き、国立公園内の豊かな自然には様々な種類の生態系が存在し、多面的な魅力についてデータを交えてお伝えしました。



「網張の森の生き物たち」が連載12年目に突入します！

2011年（平成23年）Vol.37からスタートしたこの企画も、今号で通算69回目になります。毎号その時期に見られるモチーフを探して写真に収め記事にまとめる苦労はありますが、知恵をこらして懸命に生きるいきものたちから時に力をもらい、何とか続けて来る事ができました。

隔月で表紙を飾ってきたいいきものたちの軌跡を辿ります。

1月

1月と3月は、いきものの姿があまり見られず苦労することが多いですが、グリーンシーズンとは違った容姿で出会えた時は得した気分になります。



・オニグルミ



・ヤママクノ鶇



・ゴシュウカラ



・マザーツリー

3月



・ホンドオコジョ



・ヤマトニシュウジトリバ



・ニホンモモンガ



・ホンドテン

5月

5月と7月は、毎日のように何かしらのいきものに出会える時期で、数ある候補の中から何を取り上げようか悩むことも多いです。



・コバハサミムシ



・ピロドツリアブ



・アオダイショウ



・キビタキ

7月



・ツキノグマ



・ヤマアカガエル



・コエソゼミ



・ヤブキリ

9月

9月と11月は、いきものが次の世代に代わる時期でもあり、いきものそれぞれの一生のサイクルについて考えさせられます。



・オオミズアオ



・コテングコウモリ



・ミカドフキバッタ



・エントモファガ・グリリ



・ヒガシニホントカゲ



・ミカドフキバッタ

11月



・ヒメツチハンミョウ



・シロシュウロクホシテントウ



・ウソ



・キタササキリモドキ

多くの“いきもの”との出会いがありました。感心させられる事ばかりで畏敬の念さえ覚えます。自分の身一つで生き抜いてゆくとくましい“いきもの”たちを、これからも追いかけて行きたいと思えます。

実施いたしました行事は、新型コロナウイルス感染症対策に重点をおきながら開催いたしました。今後開催予定の行事につきましても、引き続き対策を講じながら行ってまいります。

12/24 「クリスマスは新雪の網張の森で☆」 (スノーシューハイキング)



クリスマス寒波の影響が心配されましたが当日は風もない穏やかな晴天。絶好のハイキング日和。前の晩に降った新雪を踏みしめ森の奥のマザーツリーまでのコースを冬芽、樹木の種子、クマの爪痕、鳥の巣やクマ棚等を観察しながら歩きました。途中でサンタクロースが登場。プレゼントあり、歌ありのクリスマス会も楽しみました。「雪の中でもいろいろな生きものが生きているのを感じた」「大きな木も小さな種から始まるんだね」参加者感想より。総勢 19 名参加

1/15 「この時期しか歩けない！ 冬の鞍掛山麓探検 スノーシューウォーク」



例年になく高い気温が続き、雨や曇も予想されたため山頂へのコースを変更し、砂防ダム経由で下山して相の沢牧野を歩きました。木々の着雪が美しく、しっとりとした静かな森と開けた牧野。面白いものを探しながら歩き、参加者の方がこの時期にしては珍しいフキノトウを見つける場面もありました。「鞍掛山は大好きな山で何度も登山しているが今日の道は初めて。雪景色が綺麗だった」参加者感想より。総勢 28 名参加

インフォメーション

- 1/7～3/26 『網張の森雪上ハイキング』
(※行事日を除く毎週土日開催)
10:00～11:00 網張ビジターセンター集合
- 3/12 『雪の鎌倉森をめざす(冬山登山体験)』
9:00～14:00 網張ビジターセンター集合
※定員に達しました
- 4/2 『相開きのブナの森で春を探そう』
9:30～14:00 網張ビジターセンター集合

環境省東北地方環境事務所からのお知らせ 「十和田八幡平国立公園岩手山地区 パークボランティア募集」

十和田八幡平国立公園盛岡管理官事務所では、十和田八幡平国立公園内で外来生物の防除作業、清掃活動、網張ビジターセンターでの自然観察会などの活動にご協力いただけるパークボランティアを募集しています。募集に関しましては、申込書を提出していただいた後に選考が行われます。ボランティアの登録期間は令和5年4月1日より2年間でその後は活動状況や本人の意思に基づき2年ごとに更新があります。

- ◆募集の要件は東北地方環境事務所 HP 参照
- ◆募集期間 1/10～3/3
- ◆応募方法

1. 「パークボランティア募集申込書」に必要事項記入の上、下記に郵送またはメールにて申し込み。
2. google フォームより必要事項を入力にて申し込み。

＜お申し込み・お問い合わせ先＞
〒020-0023 盛岡市内丸 7-25
合同庁舎 1F 環境省盛岡管理官事務所
TEL:019-621-2501 Email:ro-morioka@env.go.jp



(東北地方環境事務所 HP)



(Google フォーム)

12/18 西山公民館生涯学習事業 「女性クリスマスツリー講座」



松ぼっくりを使ったクリスマスツリーや輪切りの木に色を塗ったオーナメント作りにも挑戦。

「集中して楽しい時間を過ごしました。出来上がりに満足」参加者感想より。

「網張の森、冬の“おすすめ” 散策マップ」ができました！



メッセージコーナーやHPでご覧いただけます。

網張温泉スキー場のスキーセンターに 「網張ビジターセンターコーナー」 が開設されました！

スキー目的で網張を訪れた方々にビジターセンターを知っていただけるよう、企画展や行事をはじめ、スノーシューでの雪上散策など冬の森の楽しみ方も併せてご紹介しています。

冬季特別企画 12/24～2/19 「網張の森にすんでいる動物たち」

センサーカメラで撮影された動物の写真展・足跡クイズ、動物たちの衣替え・スケッチ体験や動物カードゲームなどを設置。網張の森に暮らす多くの生きものに関心を持ってもらいたいと企画しましたのでぜひご利用下さい。



現在開催中のビジターセンター企画展

1月4日(水)～2月27日(月)

— 柳村 敏 写真展 — 「身近に息づく野鳥たちの姿」



偶然にも大群のハクチョウが北へ帰る途中なのか、鳴き声とともに飛び立つ瞬間に遭遇しました。力強い鳴き声とともに飛び立つ迫力に感動し、その情景を撮影したいと思ったのが(野鳥の撮影の)始まりです。-出展者の言葉より-

モモンガのつぶやき

ようやく会えました。この冬、網張の森周辺で一度も見つけられなかったヤマムコの繭に。倒れかかっているブナの枝先で所在なげに時折風に揺られていました。通勤路ではちらほら見かけてはいたものの、森では目を凝らしても見つけられず「まさか全然いなかったりして…」と少し諦めかけていましたが、森をさまよい歩きようやく発見！

「この時期に見ないと何となく落ち着かないもの」が季節ごとにあるのは幸せなことなんだなあ。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 11月 958人 ◆ 12月 460人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 11月 1.9℃ ◆ 12月 -5.4℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期 (11月から3月末まで) 9時～17時 毎週火曜日休館